

中山 敏 数 議長 殿

全国災害ボランティア議員連盟企画研修

土砂災害の防災 in 広島

参加報告者
谷口 美保子

日程 平成 27 年 10 月 13 日 (火) ~14 日 (水)

【一日目】 13 : 35 ~ 15 : 00

「広島県の砂防」について石井 和夫広島県都市計画課長・出来谷 規人土砂法指定推進担当課長・猪野 宏正建築課長より当日の様子等のお話を伺う。

6 月 29 日土砂災害において多くの被害を出した状況

- 最大 3 時間雨量で 140mm 以上を観測した地域及びその周辺に被害が集中
- 広島市では佐伯区、安佐南区、安佐北区を中心に土石流が多発
- 呉市では、がけ崩れが多発
- 降雨のピークは、平日昼間の 15 時~16 時であった為、全壊 64 棟のうち出勤のため無人の家が多かったことは幸いであった。被害個所が元はため池であった為、水がたまりやすい場所であり、無理なミニ宅地造成も行われていたので、がけ近接地にも住宅が立ち並んでいた。そのことにより被害は拡大した。本市においてもため池を埋め立てた住宅もあり、細心の注意喚起が必要であると感じた。

【一日目】 15 : 00 ~ 16 : 30

「土砂災害のハード整備」について河本 洋次郎国土交通省中国地方整備局河川部土砂防災対策分析官よりレクチャーをうける。

- 日本は土砂災害との共存を運命づけられた唯一の先進国
- 平成 26 年 8 月は不順な天候であった
- 近年多くの土砂災害
- TEC-FORCE (国土交通省緊急災害対策派遣隊とは
- 平成 26 年 8 月広島豪雨災害・国土交通省の対応状況
地元の力だけでは災害に対することは大変に困難なことである。国土交通省の緊急災害対策派遣隊は大規模な自然災害に際して被災状況の把握や被災地方

自治体の支援を行い、被災地の早期復旧のための技術的支援を迅速に実施してくれる。地方整備局と連携し的確な指示を自治体に与えてくれるとのことだが日頃からの連携や訓練も必要であると感じた。

【二日目】 9：30～10：45

「ソフト対策」－住民主役の土砂災害警戒避難－原田 照美広島市自主防災連合会顧問・安佐南区自主防災連合会顧問「防災を考える会ひろしま」会長よりレクチャーを受ける。多くの犠牲者がでた安佐南区では土砂や岩が一気に押し寄せてきて、声掛け連絡等をする間もなく、防災に対する意識が薄かった。やはり、『自分の命はじぶんで守る』を基本に、日頃からの意識や訓練がどれだけ大切かを痛感した。

【二日目】 10：45～12：00

「みんなで防災－子どもも女性も若者も－」と題して川上 哲也災害ボランティア議員連盟副会長・岐阜県議会議員を中心に家庭内 DIG をワークショップ形式で行った。日頃からの意識の大事さ、家庭の中での防災に対する認識の共有が大変重要であることを再認識することが出来た。

【二日目】 14：00～15：00

「安佐南区」現地視察マツダオートザム梅林屋上にて、国土交通省中国地方整備太田川河川事務所より説明を受ける。住宅地の裏山から何本もの筋が出来ており溪流の荒廃状況や土砂の流出状況も見られ、被災状況の大きさを垣間見ることが出来、改めて土砂災害の怖さを知ることが出来た。

【二日目】 15：30～16：30

「安佐北区」の被害現場を広島県西部建設事務所 川西 利治次長の説明により現地視察。家があった場所からいまだに水が湧き出ていた。こんな場所とわかりながらの宅地開発であったのだろうか。建設許可の段階で問題はなかったのか、広島市にも問題はあったとのことであった。現在水の流れる場所を作りながらの復旧工事中であった。

『まとめ』

本市も土砂災害の危険にさらされている箇所もある。日頃の点検を怠ることなく実施していかなければいけない。多くの雨量を想定した環境整備が必要であるとともに、我が家の状況を各自がしっかりと把握していくことも大変重要であると感じた。